

# 環境報告書

## 2024年度



**SDGs**  
REGISTERED PARTNER  
NAGANO PREFECTURAL  
GOVERNMENT

 株式会社 **サントリー**

## ◆ ごあいさつ ◆

私ども、株式会社サンコーは、1963年創業以来、世の中の変化に応じ、高難度部品加工への挑戦を重ね活躍のフィールドを広げて参りました。そして、お客様が求めるものづくりを通して信頼関係を築き、必要性を認められる存在になってきました。これからも、製造業を通して、世の中に貢献できる企業であり続けたいと考えています。

さて、昨今の環境問題に目を向けると深刻さが増してきております。例えば、地球温暖化により、海面の水位が上昇し海拔の低い土地が水没してしまう恐れや、集中豪雨による河川の決壊などで、水害が多発しています。全世界的に持続可能な地球環境の保全への対応が求められています。このような中、当社では、ISO14001を2004年に全工場で認証取得し、環境負荷を低減させたものづくりを推進しております。本システムに基づく環境活動サイクルを有効に活用することで、環境負荷低減をはじめとする環境活動は、着実に成果が出てきていると考えております。

本報告書は、当社の環境活動への取り組みについて主要な内容をまとめたものであり、ご高覧いただき当社の事業活動にご理解を賜れば幸いです。



代表取締役 竹村 潔

## ◆ 会社概要 ◆

- 会社名 株式会社サンコー
- 代表者 代表取締役社長 竹村 潔
- 事業内容 自動車関連製品、住宅設備関連製品、事務機関連製品、デジタル家電関連製品に関するプレス製品、メカトロ製品及びプラスチック製品の製造販売
- 事業所 本社／〒399-0782 長野県塩尻市広丘野村959番地  
工場／堀金工場、三田工場、梓川工場、福岡耳納工場
- 株式上場 東京証券取引所スタンダード市場（証券コード番号：6964）
- 従業員数 304名

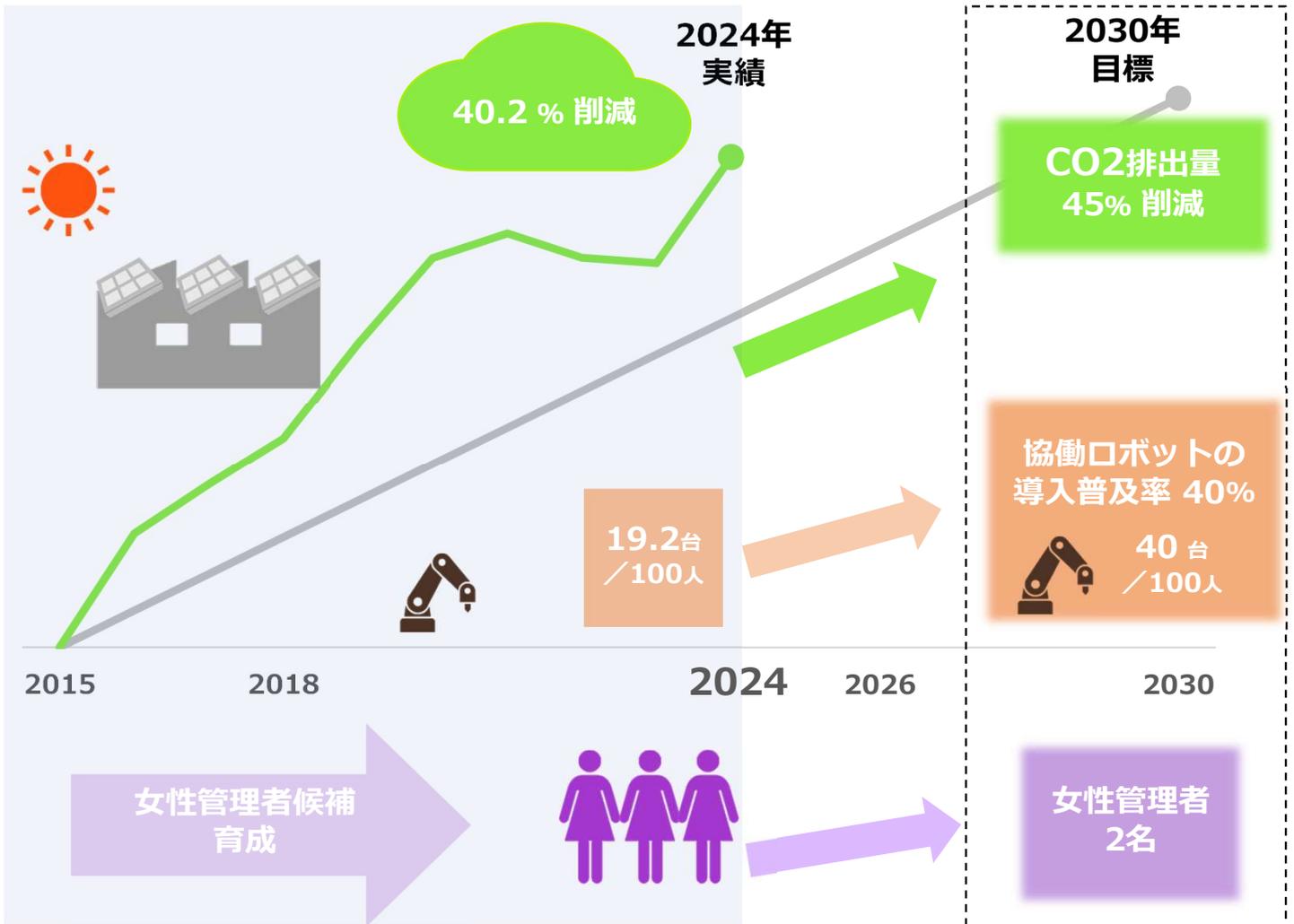


◆ 2030年に向けたSDGs達成に向けた取り組み ◆

サンコーは、持続可能な地球環境の保全に貢献する為、SDGs達成に向けた取組を強化させて参ります。

重点的な取組み

2030年に向けた指標



事業活動で排出されるCO2排出量の削減

2015年を基準年とし45%削減



EV車、HEV車の普及に向けて車載電気部品の低コスト化技術の向上

高圧・制御・電装関連の生産量 2020年度比30%拡大

協働ロボットの導入普及率 2030年までに40% (40台/100人) へ

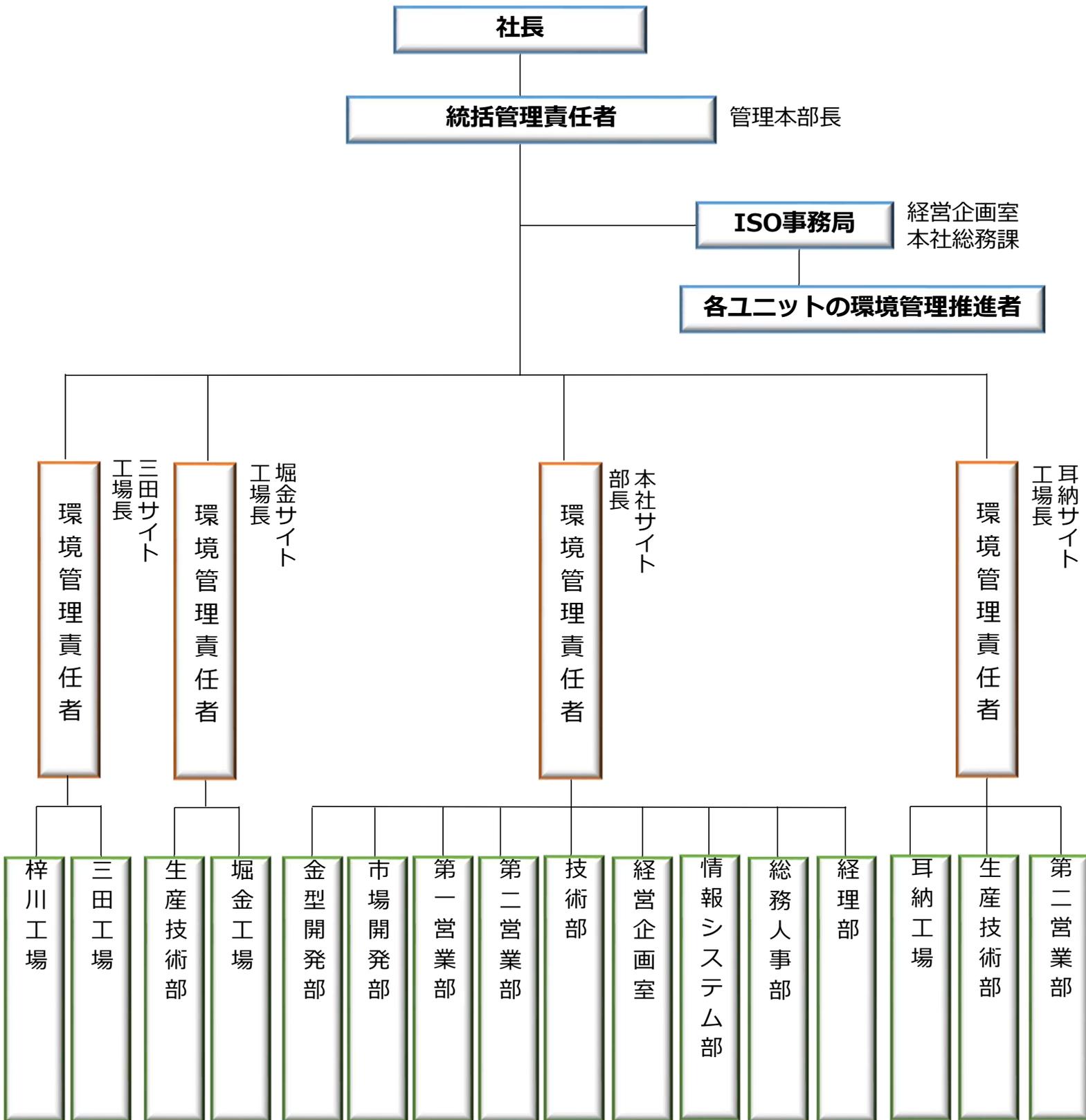


女性社員の登用推進と幅広い職場への配置

管理者2名の育成 製造部門での女性社員活用



# 1.環境管理体制

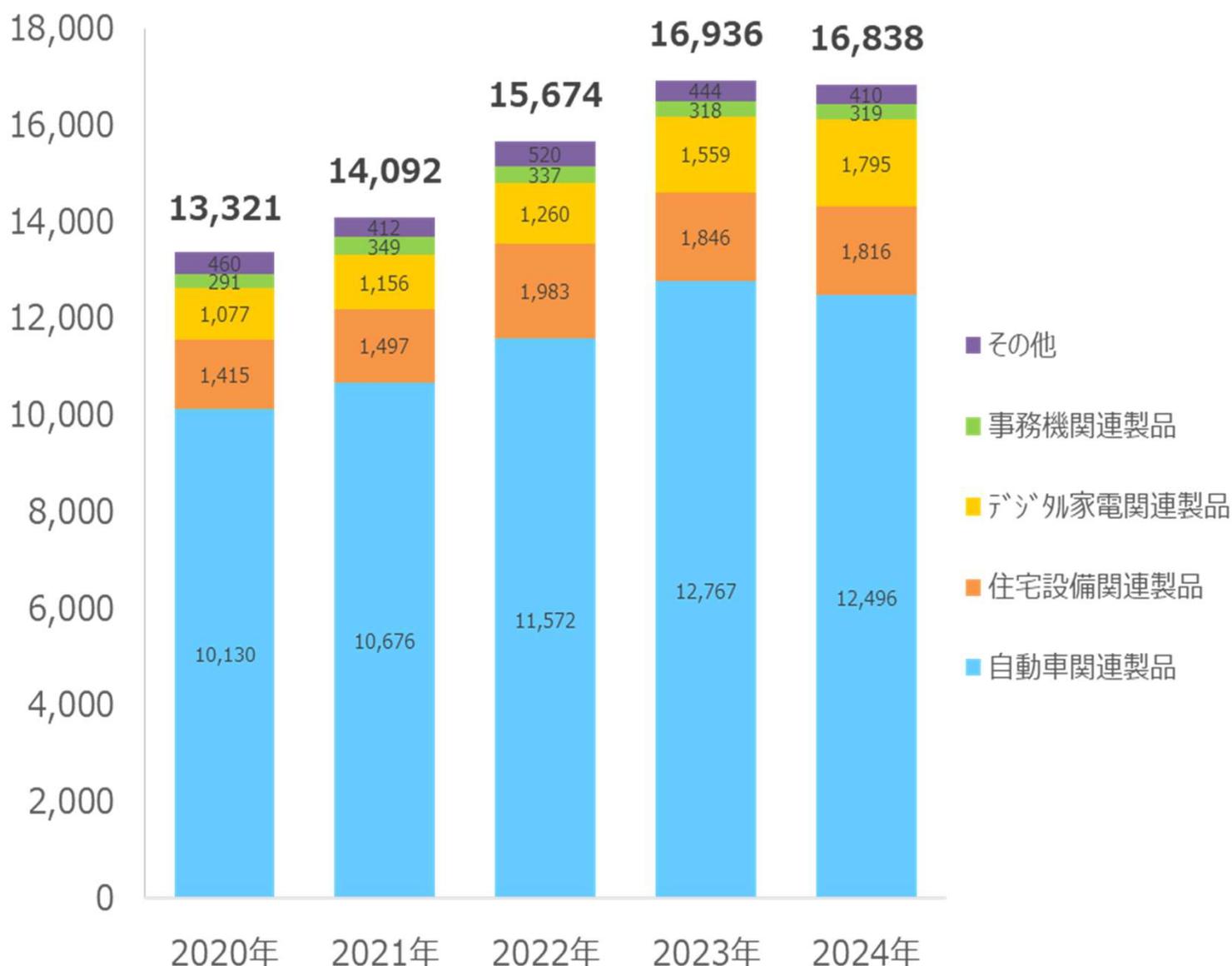


## 2.売上高推移（連結）

当期の売上高は、168億3千8百万円（前期比0.6%減）となりました。

国内は自動車産業の新製品金型等の受注が好調で、ほぼ計画通り推移しましたが、海外子会社はバッテリー式電気自動車の販売減速の影響を受け売上減少となりました。

（百万円）



### 3.主要設備

#### プレス製品量産設備



#### プラスチック製品量産設備



#### 金型製造設備



#### ロボット



## 4.主要製品

### プレス製品



### プラスチック製品



### メカトロ製品



## 5.環境マネジメントシステム

### 〈環境スローガン〉

環境負荷を低減し、地球にやさしいものづくりを目指そう。

### 〈基本理念〉

私たちは、地球環境保全を企業の使命の一つと自覚し、地域社会と調和を保ちながら、「地球にやさしいものづくり」に対して常に努力し、「持続可能な発展」の国際理念のもと、循環型社会の構築に貢献していきます。

### 〈環境方針〉

当社は、基本理念に基づき次の方針を定め、地球にやさしい企業を目指します。

1. 次の3項目を中心に、汚染の防止に努め、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
  - ① 廃棄物の削減とリサイクル
  - ② CO2排出削減、省資源、省エネルギーを考慮した生産
  - ③ 顧客要求の環境関連物質の削減
2. 環境関連法規制及び、その他顧客の要求事項を遵守することにより環境保全に努めます。
3. 全社員及び協力会社は、環境対応の重要性を十分認識し、部門毎に目標設定し活動します。
4. 取引先・協力会社・地域社会とのコミュニケーション・連帯を図り、環境マネジメントシステムを効果的に推進するため、教育・啓発に努めます。
5. 当社環境方針及び環境活動に関する情報はホームページ、会社案内等に掲載することにより、利害関係者及び一般の人が入手できるよう必要な情報の共有に努めます。



## 6. ISO14001認証取得

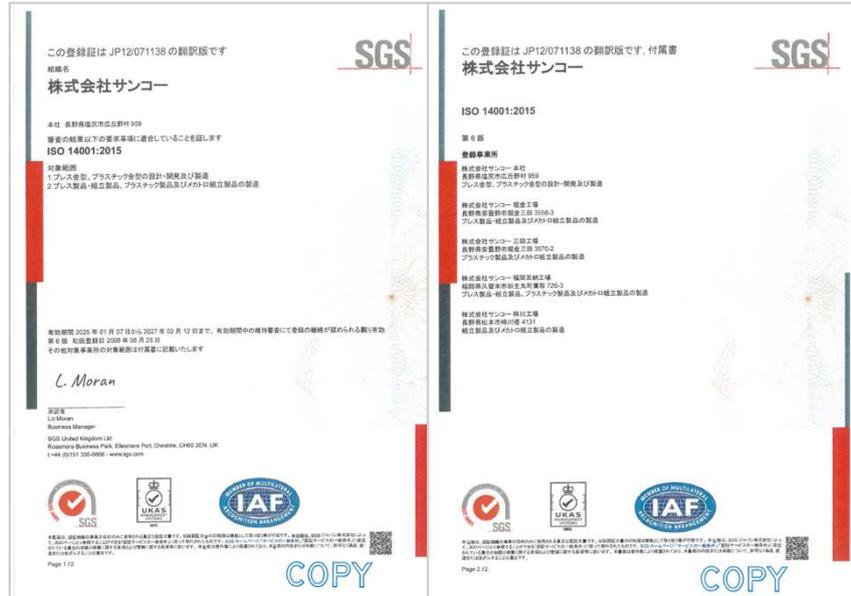
当社では、環境国際規格ISO14001を認証取得しております。

初回登録日 2000年3月23日

有効期限 2027年2月12日

対象範囲

- 1.プレス金型、プラスチック金型の設計・開発及び製造
- 2.プレス製品・組立製品、プラスチック製品及びメカトロ組立製品の製造



### 【外部監査】

2024年12月にSGSジャパン株式会社より、ISO14001の維持審査を受審いたしました。対象工場にて審査が実施され、環境に関わる不適合はございませんでした。その結果、「ISO14001の要求事項に適合し、運用され、継続的に改善されている」との評価をいただきました。

### 【内部監査】

監査の公正・客観性を確保するため、統合内部監査員として資格認定された監査員で監査チームを編成し、内部監査とフォローアップ監査を実施しております。監査結果を経営陣に報告するとともに、被監査部署は指摘事項の是正とシステムの見直しを行っております。

2024年度も全部署で統合内部監査を行い、システム運用に関する重大な指摘事項のないことを確認しております。軽微な指摘事項については各サイト共に速やかな是正処置を行いました。

### ◆環境関連物質の不使用と削減◆

環境関連物質の使用禁止または削減の管理に関し、電機業界中心のRoHS指令（使用禁止10物質）及び自動車業界中心のELV指令（使用禁止4物質）の使用はすでに廃止しております。さらにEUの工業化学物質の規制である「REACH」に対応すべく、高懸念物質（SVHC）について代替物質への切替など使用低減を図っております。特に、製品の洗浄に使用されるジクロロメタン（塩化メチレン）は洗浄力が強いという長所がありますが、他の洗浄の代替手段によって、削減を目指していきます。

## 7.長野県グリーンボンド購入



長野県は、2050年度の二酸化炭素（CO2）排出量実質ゼロの達成（緩和）と気候変動に起因した自然災害による被害の回避・軽減（適応）に向けた取組として、令和2年度からグリーンボンドを発行しており、長野県内におけるESG投資に対する機運の醸成を図っています。

当社も、県の取組に賛同し、排出削減令和6年度発行のグリーンボンドを購入いたしました。県の取組により、自然豊かな長野県の実環境改善や自然災害の回避・軽減に微力ながら寄与したいと考えております。

また、当社としても地球にやさしいものづくりを推し進めるべく、より一層の努力をしております。

グリーンボンド：用途を環境改善効果のある事業に限定して発行する債券

### 資金の用途

グリーンボンドにより調達された資金は、下記の事業への充当が予定されております。

分類	事業内容
再生可能エネルギー	小水力発電所の設置
クリーン輸送	しなの鉄道の車両更新に対する補助
エネルギー効率	県有施設の新築・改修・設備等の更新（照明のLED化）
気候変動への適応	水害対策のための河川改修 農業用ため池の改修 土砂災害対策のための砂防、治山、地すべり、急傾斜地崩壊対策 交通インフラ整備（信号機電源付加装置、道路防災等）
生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理	森林環境保全のための林道整備



## 8.目標達成度評価



目 標	サイト	61期 (2023年度)			62期 (2024年度)			前期比	対前期比 目標評価	2015年比	対2015年比 目標評価
		内製生産高 (百万円)	CO2排出量 換算値 (t-CO2)	原単位 (t/百万円)	内製生産高 (百万円)	CO2排出量 換算値 (t-CO2)	原単位 (t/百万円)				
CO2 排出量 2024年目標： 2015年比27%削減 (原単位採用) (前期比3%減以上) <マイナスが良い>	本 社	729	797.43	1.093	896	726.30	0.810	-25.91%	◎	-40.57%	◎
	堀金工場	1,918	1,800.23	0.939	1,977	1,564.11	0.791	-15.74%	◎	-45.25%	◎
	三田工場	989	2,214.57	2.240	943	2,186.92	2.320	3.58%	×	-18.20%	×
	耳納工場	453	807.64	1.781	498	703.59	1.414	-20.64%	◎	-66.65%	◎
	合 計	4,089	5,619.87	1.374	4,314	5,180.91	1.201	-12.62%	◎	-40.17%	◎
目 標	サイト	61期 (2023年度)			62期 (2024年度)			前期比	対前期比 目標評価	2018年比	対2018年比 目標評価
内製生産高 (百万円)	排出量 (t)	原単位 (t/百万円)	内製生産高 (百万円)	排出量 (t)	原単位 (t/百万円)						
廃棄物 排出量 2024年目標： 2018年比5%増以内 (原単位採用) (前期比1%増以内) <マイナスが良い> ※マニフェストを 発行するもの	本 社	729	18.13	0.0249	896	22.79	0.0254	2.28%	×	25.91%	×
	堀金工場	1,918	73.67	0.0384	1,977	82.02	0.0415	7.97%	×	5.84%	△
	三田工場	989	161.50	0.1633	943	129.06	0.1369	-16.18%	◎	-13.23%	◎
	耳納工場	453	22.54	0.0497	498	17.83	0.0358	-27.94%	◎	-8.98%	◎
	合 計	4,089	275.84	0.0675	4,314	251.70	0.0583	-13.51%	◎	-2.24%	◎

### ◆ 基準年 (2015年) からの推移(CO2)



### ◆ 基準年 (2018年) からの推移(廃棄物)



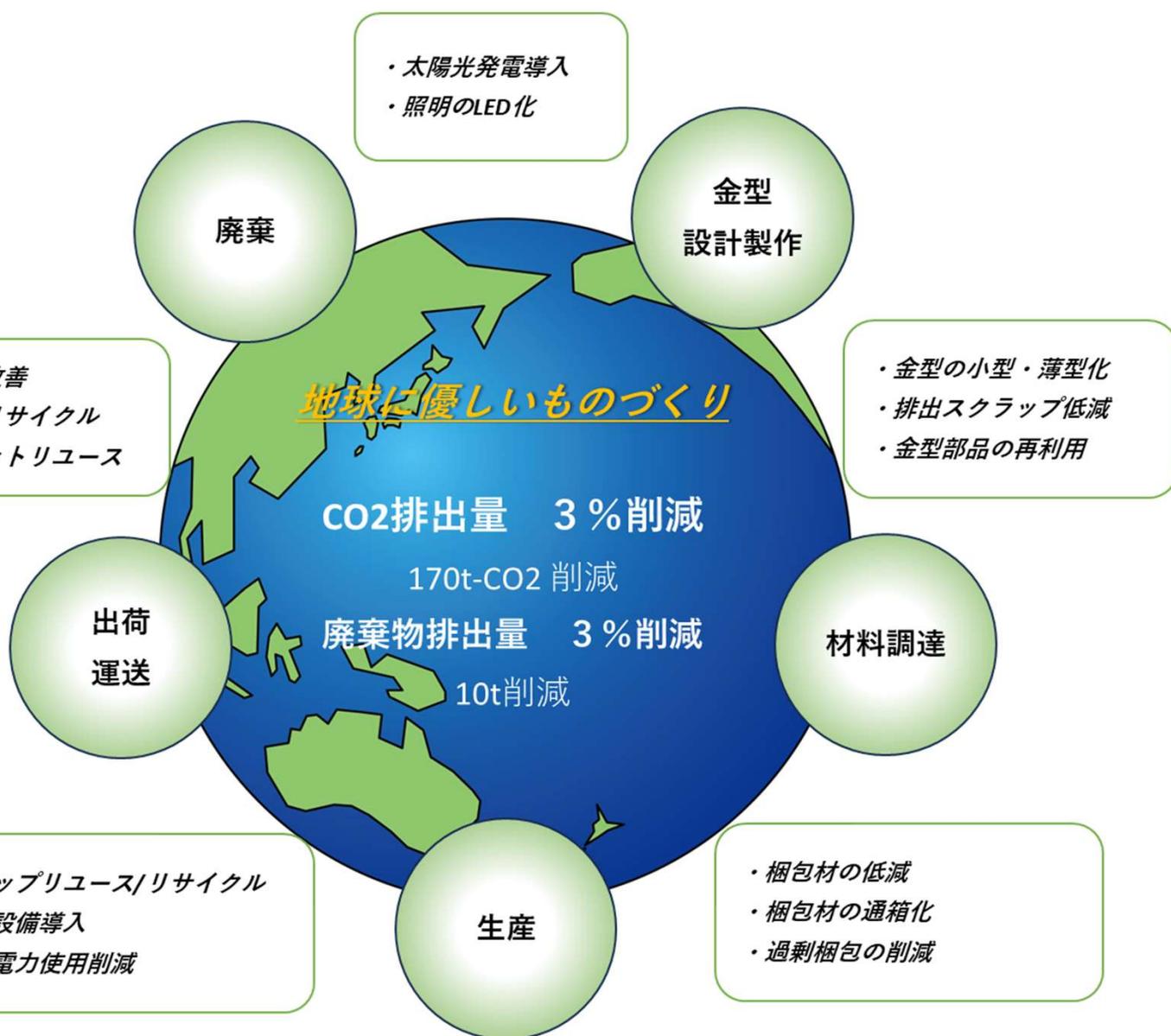
### ～前年度の結果～

CO2排出は、使用した電気、燃料の使用量からCO2排出量を算出し、2015年度を基準年とした内製生産高原単位では2022-23年度に3工場で導入した太陽光発電の効果もあり40.2%削減となっております。これは2024年度目標に対し13.2%先行して進んでいる状況です。電力使用量は全社で前期比約5万kwh増加したものの、原単位計算では内製生産高の微増に対し、電力CO2排出係数が約10%減少した影響があり、前期比8.7%の排出削減が進んだ状況となっております。

産業廃棄物の排出は、2018年度を基準年とした内製生産高原単位で排出量を前年比1%増以内に抑えるよう削減活動を行っておりますが、2019年度より中国の廃棄プラスチック類輸入全面禁止の影響を受け、目標に対し排出量が増加した状況からリサイクル・リユースの強化などにより廃棄物の排出削減を進め、2018年レベルを下回ることができました。特に分別により廃棄プラスチックをリユース材に転換できたことで大きな効果となっております。

現状リサイクル率が約60%~90%、リユース率がプラスチック製品を生産している工場で数%程度と認識しておりますが、社外でのリサイクル率など含め正確な数字の把握を行い開示していくとともに、リサイクル・リユースをさらに進め、廃棄物の排出削減につなげてまいります。

## 9.年度目標と生産工程での主な施策



### ～地球に優しいものづくりへの取組み～

当社の基本理念である「地球に優しいものづくり」に対し、太陽光発電、照明のLED化などの電気使用量の削減はすでに実施しておりますが、建物の構造上の理由により導入を見送っていた部分についても太陽光発電パネルの軽量化など状況の変化もあるため、改めて導入の検討を行うことや、省エネ設計の設備への入れ替えによる電力量の削減、社有車のHEV導入化によるガソリン使用量の削減、各現場の生産工程での省エネ対策の徹底により、全社のCO2排出量の前年比3%削減を目標に活動を進めております。

産業廃棄物の排出については、金型構造改善による材料使用量の削減、材料、部品、備品などのリサイクル・リユース率向上、生産工程からの排出物の分別回収の強化、品質向上活動による不良廃棄の低減、エコ梱包による過剰梱包の削減などを進め、全社の廃棄物排出量の前年比3%削減を目指して活動しております。

# 10.2024年度の各工場の重点実施内容



## 本社



2024年度目標 内製生産高 原単位採用	2024年度実績				対前期比 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量		原単位 (t/百万円)	
		換算値 (t-CO2)	廃棄物排出量(t)		
CO2排出削減 2015年比27%以上削減	896	726.30	0.8102	-25.91%	◎
廃棄物削減 2018年比5%増以内	896	22.79	0.0254	2.28%	×

2024年度目標 内製生産高 原単位採用
前期比1.5%減
前期比10%減

### 【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

- ・前年度の活動でCO2排出削減については、老朽生産設備3台を更新し、省電力化を進めたことと、年間使用電力量は前年比1,300kwhの削減、機械の能力アップや改善による内製生産高が約20%向上させることができました。CO2排出量は電力会社の排出係数が低下した影響も大きく、約71tの削減、原単位で約20%削減となりました。
- ・廃棄物削減については、金型用スプリングの再利用、社内制作している金型プレートの厚さを薄くする活動に取り組み、全体として約10%の使用材料低減につなげる努力などしておりますが、老朽設備や備品等の廃棄が多くあったこともあり、排出量は約4tの増加、原単位で前期比2.28%の増となってしまいました。

#### ◀本年度の重点実施内容▶

- ・原単位でのCO2排出削減を進めるため、生産設備の能力アップと省電力化を進め、老朽化した生産設備（放電加工機、細穴加工機等）の更新により10tの削減を図ります。
- ・廃棄物削減については、5Sを進めるため古い不要な設備は売却するなど処分しつつ分別できるものはリユースに回し排出量10%削減に努めていきます。

## 堀金工場



2024年度目標 内製生産高 原単位採用	2024年度実績				対前期比 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量		原単位 (t/百万円)	
		換算値 (t-CO2)	廃棄物排出量(t)		
CO2排出削減 2015年比27%以上削減	1,977	1564.11	0.7910	-15.74%	◎
廃棄物削減 2018年比5%増以内	1,977	82.02	0.0415	7.97%	×

2024年度目標 内製生産高 原単位採用
前期比2%減
前期比10%減

### 【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

- ・プレス機やエアコンなど老朽設備の更新を計画に沿って行うことで、電力使用量が約29万kwh削減したことで、内製生産高も約3%向上し、CO2排出量原単位で約15%の削減となっています。
- ・産業廃棄物は、木製パレットのリユースが定着し、木くず約1tの削減の効果がでていますが、不用品の廃棄が増え、全体として廃棄量が前年度比約8tの増加となり、原単位でも約8%の増加となってしまいました。

#### ◀本年度の重点実施内容▶

- ・CO2排出量削減対策として、工場内のエア漏洩箇所を可視化し特定する機器を利用し的確に補修対策を打つことで電力使用量の削減・CO2排出削減を図ります。また、切断機等の設備更新でも約24tのCO2排出削減と端材廃棄量の削減の効果も狙っています。
- ・産廃のうち約50%のウエイトを占める木くず・木パレットの削減に継続して取り組み材料商社と協力して再利用を促進させ、産廃を全体で10%削減を図ります。

### 三田工場



2024年度目標 内製生産高 原単位採用	2024年度実績				対前期比 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量		原単位 (t/百万円)	
		換算値 (t-CO2)	廃棄物排出量(t)		
CO2排出削減 2015年比27%以上削減	943	2186.92	2.3197	3.58%	×
廃棄物削減 2018年比5%増以内	943	129.06	0.1369	-16.18%	◎

2024年度目標 内製生産高 原単位採用
前期比2.5%減
前期比3%減

#### 【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

- CO2排出削減については、電力会社の排出係数が約8%低下したにも関わらず、原単位指数で前年比約3.6%の増加となりました。主な要因としては、新規追加導入した成形機・乾燥機各5台の増設と梓川工場での組立ライン増設による使用電力量の増加と、受注増の予算に対し、昨年上期は急激な減産で稼働率が約7%低下したことが挙げられます。急激な減産時、稼働率が低い場合の省エネ生産をするため、稼働設備の集約化と計画的な設備休止、コンプレッサーの電力消費低減など、状況に応じた対策が十分に取れなかったことが反省点です。生産計画の見直しと減産時の省エネ生産の徹底により、無駄な電力消費を抑えていきます。
- 廃棄物削減については、分別廃棄によるリサイクル業者への引取り強化と不良削減活動により、前年度比32tの排出量の削減、原単位で16%の削減となっています。

#### 《本年度の重点実施内容》

- CO2排出削減については、太陽光発電の追加設置および成型機・乾燥機の省エネモデルへの入替による約12万kwhの使用電力削減などトータルで約52tのCO2排出削減を図ります。
- 廃棄物削減においては、工程内の不良低減や不良検出の精度を上げるため、動画での作業教育を強化し、不具合検出力を向上させ、廃プラ排出量の10%削減を図ります。

### 耳納工場



2024年度目標 内製生産高 原単位採用	2024年度実績				対前期比 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量		原単位 (t/百万円)	
		換算値 (t-CO2)	廃棄物排出量(t)		
CO2排出削減 2015年比27%以上削減	498	703.59	1.4136	-20.64%	◎
廃棄物削減 2018年比5%増以内	498	17.83	0.0358	-27.94%	◎

2024年度目標 内製生産高 原単位採用
前期比4.5%減
前期比4%減

#### 【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

- 事務所の老朽エアコンの更新により使用電力量が前年比約4万kw削減できました。また内製生産高についても約10%向上させることができたことと、電力会社の排出係数の低減もあり、原単位指数で前期比約20%の減少となりました。
- 廃棄物に対しては、廃プラの分別を強化してリサイクル業者への引取を増やすことにより、廃プラの廃棄量を約7t削減することができ、原単位で約28%削減ができています。

#### 《本年度の重点実施内容》

- 本年度も計画で2年に分けた会議室などのエアコンの更新とエア漏れの修理を計画しており、約27tのCO2排出削減をすることと、マグネットクランプの導入により、機械の非稼働時間の削減を考えており、電力使用量の低減、内製生産高の向上を図り、原単位でのCO2排出削減を進めていきます。

## 11.環境計画内容及びエネルギー使用合理化

省エネ法に基づき、エネルギー管理統括者、エネルギー管理企画推進者を選任し定期報告書を提出しております。  
中長期計画書に基づいた計画は以下の通りです。

内容	該当する工場	実施時期
<p><b>1.工場設備の省エネ対応</b></p> <p>◆コンプレッサのエア漏れ対応による効率化促進 エア漏れ箇所の可視化ツールを利用し改善活動を強化する。</p> 	 全社対象	2013年～継続中
<p><b>2.蛍光灯のLED化</b></p> <p>・2022年 堀金工場 済            ・2021年 三田工場 済            ・2021年 耳納工場 済            ・2023年 本社 済</p> 	 全社対象	2018年～2026年
<p><b>3.空調設備交換による削減</b></p> <p>◆空調設備の約3割をインバータタイプに交換</p> <p>・2022年 堀金工場 済            ・2022年 三田工場 済            ・2022年 本社 済            ・2022年 耳納工場 済</p>	 全社対象	2022年～2023年
<p><b>4.全社的な削減対応</b></p> <p>◆エアコンフィルター及び室外機の定期的清掃の実施            ◆夏季・冬季の温度設定の徹底            (測定室・ワイヤーカット室は除く)</p>	 全社対象	2013年～継続中

内容	該当する工場	実施時期
<p><b>5.太陽光発電システムの導入</b></p> <p>耳納工場 済 2022年より稼働中</p>  <p>三田工場 済 2023年より稼働中</p>  <p>堀金工場 済 2023年より稼働中</p> 	<p style="text-align: center;">済</p> <p style="text-align: center;">全社対象</p>	<p style="text-align: center;">2022年～2025年</p>
<p><b>6.水銀灯の省エネ照明への切替</b></p>	<p style="text-align: center;">済</p> <p style="text-align: center;">全社対象</p>	<p style="text-align: center;">2019年完了</p>

## 12.地域社会貢献活動、安心安全な工場への取り組み

地域の清掃活動・緑地の増加に力を入れて活動しています。  
従業員一丸となって、取り組みます！

### 会社周辺の清掃活動・ 緑地の維持管理



## 13.地域社会貢献活動、安心安全な工場への取り組み

### 防災訓練の実施

万一の自然災害に備えて各サイト毎、防災訓練を年1回実施し、合わせて灯油・オイル等の漏洩に備え、緊急事態対応の訓練も実施しています。





2025年8月発行

当社は2008年から「環境報告書」を作成しております。  
環境スローガン『環境負荷を低減し地球にやさしいものづくりを目指そう』を  
合言葉に、ISO14001の環境活動の活動データに基づき作成しております。

- ・対象範囲  
本社サイト、堀金工場サイト、三田工場サイト、福岡耳納工場サイト
- ・対象期間  
2024年4月1日～2025年3月31日
- ・参考にしたガイドライン  
環境省「環境報告ガイドライン（2018年度版）」

発行部署/お問い合わせ先

総務人事部 総務課

〒399-0782

長野県塩尻市広丘野村959番地

TEL : 0263-52-2918 FAX : 0263-51-1667

URL : <https://www.sko.co.jp>



株式会社 **サンコー**